

## 第9回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」

### 結果概要

1. 日時：平成30年3月19日（月）14時00分～15時35分
2. 場所：三井ガーデンホテル千葉 3階・平安南

## 第9回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日時：平成30年3月19日（月）14時00分～15時35分
2. 場所：三井ガーデンホテル千葉 3階・平安南
3. 出席者：別紙のとおり
4. 議事概要

### （1）開会

○司会 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第9回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます千葉県東京オリンピック・パラリンピック推進課の大野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

### （2）あいさつ

○司会 それでは、次第に従いまして会議を進めさせていただきます。

初めに、本会議の会長でございます森田知事から御挨拶申し上げます。

○森田会長 委員の皆様におかれましては、大変御多忙の中、御参集賜りまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨日、平昌パラリンピックが閉会し、次はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックとなります。大会の成功に向けて市町村や大学、経済団体との連携をさらに進め、オール千葉で取り組んでいかなければなりません。県では「千葉でやって良かった」と言っていただけのように、来年度、競技団体と連携した学校訪問の全県展開、県内開催競技を紹介するテレビ番組の放送など取組を拡大し、大会開催に向けた機運を一層盛り上げてまいりたいと思っております。さらに、本県を訪れる多くの方々に「また千葉に行きたい」と心から思っていただけのように、一丸となっておもてなし機運を盛り上げ、大会後にも心のレガシーとして残しておきたいと考えております。本日、組織委員会における開催準備の進捗状況について御報告するとともに、機運の醸成など、千葉県戦略に係るさまざまな取組について御協議いただきます。

また、昨年7月に開催した第8回推進会議において、成田国際空港株式会社の夏目委員から、成田空港を機運醸成に使っていただきたいという御発言を頂戴し、10

月に成田空港で東京オリンピック 1000 日前記念イベントの開催が実現いたしました。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員の皆様におかれましては、2020 年、さらにその先を見据えて、専門的、総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

ありがとうございました。（拍手）

### （３）委員紹介

○司会 ありがとうございました。

続きまして、今回新たに委員に御就任いただいた方を御紹介させていただきます。永井達也委員でございます。本日は代理の砂山様に御出席いただいております。

### （４）議事

○司会 それでは、これより議事に入ります。本日の進行につきましては新倉副議長にお願いしたいと思います。副議長、よろしく願いいたします。

○新倉副議長 よろしく願いをいたします。

それでは、これより議事を進めさせていただきます。

まず、議題（１）開催準備の進捗について、事務局から御説明をいただけますでしょうか。

○石川東京オリンピック・パラリンピック担当部長 千葉県東京オリンピック・パラリンピック担当部長の石川でございます。よろしく願いいたします。

それでは、議題（１）開催準備の進捗について、ご説明いたします。資料 1 をご覧ください。

昨年 11 月の組織委員会の理事会におきまして、資料 1 により 2020 年に向けた開催準備の全体像が示されたところです。本日はこのロードマップを基に組織委員会の取組スケジュールを御説明いたしますとともに、関連する県内の取組状況についても併せて御報告をさせていただきます。

まず、大会運営のうち競技日程等でございますが、平成 30 年度の第 3 四半期に決勝や予選のイベントスケジュールを決定することとされております。

次に、大会ボランティアにつきましては、本年 9 月中旬に応募受け付けを開始し、来年 10 月ごろから大会直前にかけて研修が行われる予定となっております。本県

においても主要駅や空港等で交通、観光案内等を行う都市ボランティアの募集を本年の夏以降に開始する予定でございます。前回会議で御指摘いただきました大会ボランティアとの連携・補完も念頭に置きながら、都市ボランティアの育成・確保を進めていきたいと考えております。

次に、輸送についてです。これは、本年夏ごろに輸送ルート案を策定することとされております。県内の交通関係の団体、企業の皆様からは準備のための情報が少ないことを不安視する声も上がっていることから、専門部会等を通じまして、県内の団体、企業の皆様の声をまとめ、引き続き組織委員会に積極的な情報提供を求めてまいります。

また、飲食についてでございます。平成30年度に入って、飲食提供事業者の選定が進められ、平成31年度、第3四半期に飲食メニューの決定が予定されております。本県では、大会の農産物調達基準への対応や農産物輸出の足がかりのために、本年2月に「ちばGAP」の運用を開始いたしました。

次に、ページの中ほどのインフラ整備でございます。インフラ整備のうち競技会場についてですが、現在、組織委員会ではセキュリティフェンスや運営用プレハブテント、放送用照明など仮設オーバーレイと呼ばれる設備の基本設計を実施しております。来年度は、これらの実施設計を行いまして、平成31年度からは一部の会場で工事が始まる予定でございます。

なお、設計が進められていく中で、組織委員会において幕張メッセの使用期間やエリアの縮小が検討されると伺っておりますけれども、県としては、幕張メッセの展示事業に可能な限り影響を及ぼさないよう、使用期間の短縮や使用範囲の最小化等を引き続き求めてまいります。

仮設等の工事は組織委員会が実施することとなりますが、県や千葉市、一宮町では所管する施設等について必要となる恒久的な整備・改修を進めていくこととなります。具体的には、県において幕張メッセの大規模改修、サーフィン会場となる釣ヶ崎海岸の自然公園施設や保安林等の基盤整備、千葉市においては幕張メッセ周辺のバリアフリー化、一宮町においては自然公園内の恒久施設整備を行うこととしており、現在の取組状況については、後ほどの議題（2）及び（3）で御報告させていただきます。

次に、ページの下段の機運醸成等についてです。組織委員会では、フラッグツア

一や参画プログラムを通じて、全国で大会機運の盛り上げにつなげていくとともに、2020年4月ごろから祝祭感あふれる文化プログラムをオールジャパンで展開するため、「東京2020 Nippon フェスティバル」を実施することとしています。また、全国の小学生の投票により、先月デザインが決定しましたマスコットについてですが、本年夏ごろ、名称を含め正式にお披露目が予定されております。本県としてもこうした組織委員会の取組と連動しつつ、市町村や大学、企業、経済団体の皆様との連携を強化し、オール千葉体制での取組を拡大してまいります。

最後に、チケットについては、平成30年下期から平成31年上期に販売が開始される予定で準備が進められております。大観衆の声援は選手に対する最大のおもてなしとなることから、県も地元自治体として本日御出席の皆様のお力添えをいただきながら、より多くの県民の皆様にご覧いただきたいと考えておりますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

議題（1）の説明については以上でございます。

○新倉副議長 それでは、御質問、御意見がありましたら挙手をお願いできますでしょうか。

もしございませんようでしたら、次の議題に移ってよろしいでしょうか。

それでは、議題（1）はここまでとさせていただきます。知事はこの後所用がございますので、ここで退席をさせていただきたいと思っております。

○森田会長 よろしく申し上げます。（拍手）

（森田会長退室）

○新倉副議長 それでは、次に議題（2）平成29年度の取組状況について、事務局から御説明をいただきます。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。議題（2）平成29年度の取組状況について、私から、まず資料2-1について御説明をいたします。こちらは平成29年度の総括としてオール千葉の取組を千葉県戦略に沿ってまとめたものでございます。

それでは、資料2-1の1ページ目をご覧いただきたいと思っております。1ページ目でございます「戦略0 大会の成功・開催効果の全県への波及」についてです。幕張メッセにおきまして、県が行う大規模改修の中でトイレのリニューアル、エレベーター・エスカレーターの更新・増設等を進めるとともに、会場周辺におきまして

千葉市で歩道の段差解消やエレベーター・エスカレーターの設置などバリアフリー対応の充実を図っているところでございます。

そして、上から2つ目の項目になります。サーフィン会場となる一宮町釣ヶ崎海岸におきまして県で自然公園施設の整備を、そして一宮町でその公園内の恒久施設整備を進めているところでございます。

続きまして、2ページ目をご覧いただきたいと思います。「戦略1 キャンプ・国際大会・MICE誘致」についてです。事前キャンプ誘致につきまして、船橋市、横芝光町、浦安市がそれぞれアメリカ、ベリーズ、イギリスと事前キャンプ実施において、合意いたしました。

また、本年8月に本県で開催されます世界女子ソフトボール選手権大会の事前キャンプの実施に関しまして、市原市及び君津市が、ニュージーランドと事前キャンプ実施に合意しているところでございます。

続いて、4ページ目をご覧いただきたいと思います。项目的には3ページの下にございます「戦略3 成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化」です。4ページ目の一番上の項目、成田空港の利便性向上につきまして、ターミナル内のトイレのリニューアルや訪日外国人に各種情報やサービスをワンストップで提供する「Visitor Service Center」の新設など、成田空港の利便性向上に取り組まれているところです。

同じく4ページ目の上のほうにございます「戦略4 バリアフリー化の促進」の一番上の項目になります福祉タクシーでございます。交通弱者の交通手段の確保・充実を図るため福祉タクシーの導入を進めているところです。

また、戦略4の項目の上から4番目の心のバリアフリーの推進、それから5番目の心のバリアフリープロジェクトの推進ですが、ヘルプカードの作成、配付やオリンピック・パラリンピック推進校におきまして義足体験や競技体験を通して共生社会を考える学習を実施するなど、心のバリアフリーの推進を図っています。

続いて5ページ目をご覧いただきたいと思います。5ページ目の「戦略5・6 魅力ある観光地づくり・外国人受入体制」につきましては、後ほど資料2-2、資料2-3のほうで御説明をさせていただきます。

続きまして、資料6をご覧いただきたいと思います。「戦略7 危機管理・安全対策」につきまして、上から1番目の項目、国民保護実動訓練の実施でございます。

幕張メッセ等で国民保護実動訓練を実施するなど、テロ、感染症等の対策を進めているところです。

続いて7ページ目の「戦略8 機運の醸成・国際交流の促進」につきましては、項目の上から2つ目になりますオリンピック・パラリンピック教育の推進でございます。オリンピック・パラリンピックの推進校におきまして、ボランティア精神の醸成、多様性の尊重、スポーツの価値、異文化理解等の学習に取り組んでおります。

また、3つ目の項目になります都市ボランティアの養成・確保については、外国人観光客へのおもてなしとしてコミュニケーション支援体制を整備するためボランティアの育成講座を実施いたしました。

続いて8ページ目をご覧いただきたいと思います。「戦略9 戦略的な千葉の魅力発信」につきましては、一番上の項目ですが、啓発グッズの配布やラジオCMなどを通して、九十九里・外房地域の魅力をPRしたほか、千葉の文化的魅力を再認識してもらう取組として「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」について公募を行ったところでございます。

資料の他に、今回参考といたしまして、本県開催競技の普及など大会に向けた機運醸成、県内開催競技の普及を目的としたイベント等の実施状況ということで、先ほど知事からお話をさせていただきましたが、成田空港様に協力をいただいて実施した1000日前イベント等を挙げさせていただきました。

私からの説明は以上になります。

続きまして、資料2-2と資料2-3について観光企画課から御説明いたします。

**○松上観光企画課長** それでは、資料2-2と資料2-3につきまして、観光企画課から説明を申し上げます。

まず、資料2-2でございます。「オール千葉おもてなしアクション！」と題名がありまして、これは千葉県におけるおもてなしのレベルアップをしようということで、その取組方針でございます。

まず、「取組方針の目的」でございますが、オリンピック・パラリンピックの開会まで3年を切り、民間でも新しいさまざまなおもてなしをしようというような動きが始まっています。そこで、この動きをさらにレベルアップを加速させようということ、そして、最終的には千葉県の心のレガシーを残すような、そういった取組をオール千葉で進めようというのが1番でございます。

「基本的な考え方」については、千葉県ではさまざまなおもてなしのレベルアップをしようという事業をやってまいりました。これをここでもう一度再構築いたしまして、事業が相互に相乗効果を発揮できるような体制をつくりまして、しっかりと進めようと思っております。さらには、ここから千葉県民の皆様にも一緒にやりましょうと、呼びかけをします。それで、「千葉県ならではのおもてなし」ということで、キーワードは「思いやり」「スマイル」「クリーン」の3点で活動を進めようということでございます。

おめくりいただきまして3番に進みます。どのような事業をするのかということと3つに分けますと、まず、県民の皆様への意識啓発、そして、おもてなしを実践する主体の育成です。これは、先導的にこうしたオール千葉の取組を牽引していただけるような層をつくり、そして、先導的な実践活動をするということでございます。

県民の意識啓発につきましては、精神の醸成、それから異文化の理解ということとです。千葉県ならではのですから、郷土料理に出会って、千葉県の魅力を知ってもらえるような、そういう出会いをしやすい体制をつくろうではないかと思っております。そして、インターネット等を使いまして千葉県内で出会った魅力の発信、啓発グッズの配布、こういったことをやっていきますということです。

次に進みます。2番は実践する主体を育てる取組でございまして、ボランティアの育成というものが中心となってまいります。

3番は実践活動でございます。昨年来、海岸清掃等をやっているのですが、せっかく来ていただいて、汚い環境ではまずいということで、花を植えたり、掃除をしたり、そういったことを積極的に呼びかけるとともに、実践活動もやっていくというようなことでございます。

推進体制につきましては、まずオール千葉で進めることに先立ちまして、オール県庁の体制への再構築をしたのが、この部分でございます。

それで、資料2-2の最後のページにお進みいただきますと、平成30年度に何をやるのかということでございます。ここに総合企画部、環境生活部、商工労働部、農林水産部と関係するセクションがありまして、例えば総合企画部ですと、Face bookを使って千葉の魅力を発信する、千葉はこういう素晴らしいところがあるのだとわかってもらうということです。そして、また宿泊施設の従業員の皆様等

を対象とするバリアフリー研修をやります。

そして、環境生活部は、次世代のボランティア人材の育成をします。

そして、商工労働部は、地域別・分野別のシンポジウムで意識の啓発を積極的にやっていくと同時に、日本国内の先進的な事例を盛り込みました啓発冊子、リーフレットをつくり、配布します。

そして、農林水産部は、やはり千葉の魅力というと農山漁村部における食との出会い、こういうものが容易に、そしてまた非常にいい形でそういった魅力に出会っていただくことができるような状況を作ろうではないかということでございます。

そして、資料2-3でございます。ただいま申し上げました事業の一環ということになるのですが、今週の22日に、広く一般県民向けという目的で、基調講演には、テレビ番組等であちこちに鉄道の旅行をされているという関口知宏さんに旅先で出会って心に残り、そして感動したおもてなしに関するお話を頂戴します。

それに続きまして、おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房ということで、一宮町の保育所の方々が栽培をされましたヒマワリの種を森田知事が受け取って、これをみんなで植え、そして、オリンピック時には美しい花が咲く景観を作ろうではないかというテイクオフセレモニーをやるようでございます。

第2部では、歓迎の心を表現するということで花の使い方、そしてどうすればトイレをきれいにすることができるかということや、旅行会社のJTB様に入ってもらいまして、こういった地域の気持ちを表現することによって心が伝わる観光というものが作れるのではないか、そのようなパネルディスカッションをします。

そして、メインイベントでございますが、外国人観光客が非常に多い岐阜県高山市でどのようなことをやっているのか、事例学習をすることにいたしておりまして、実際に来て話してもらうだけではなく、現地ともつなぎまして、現場で具体的に何をやっているのかというような学習会をしようという企画となっております。定員300人の9割方は埋まりましたが、まだお席が1割程度残っているので、もし御興味がありましたら、ぜひ積極的な御参加を賜りたいと思っております。

説明は以上でございます。ありがとうございました。

○新倉副議長 ありがとうございます。

それでは、御質問、あるいは御意見がございましたら挙手をお願いいたします。

○増田委員 今おもてなし事業のことをお話いただきましたけれども、千葉って

気候も温暖で、千葉の花は菜の花で、全国から見てもすごく人が温かいという印象がありますので、こういうおもてなし事業を活発にやることは本当に合っているなと感じます。

それから、一昨日もららぼーとでテコンドーとパラテコンドーの体験会も開かれて、それだけではなくて、月に1回ぐらいずつ体験会をされています。また、学校にもオリンピック、パラオリンピックが来られて、すごく活発にされていて、すごく千葉は頑張っているなという気持ちです。

そんな中でお話ししたいのは、平昌パラリンピックが昨日閉幕しまして、開会式などに行っていたので、参考になるかどうかかわからないのですが、私が平昌で感じたことは、競技施設なんかはバリアフリー化が進んでいて、頑張っているなという感じだったんです。ところが、一生懸命やろうとしているのですが、バリアフリーと言っていて車椅子の方々に対するスロープがすごく急だったりしているんです。そうかと思うと、スロープはあるのだけれども手すりがないとか、そういうことを目の当たりにして、また、施設はいいのですが、取材する記者の方も車椅子のカメラマンとか車椅子の記者もいらっしゃる中で、記者に対するバリアフリーが進んでいなかったということもありました。

感じたことは、千葉はこれから幕張メッセを中心に多くの方々が来たり、成田空港などで対応するわけですが、例えば近くの一般のお店がバリアフリー化を進めるに当たってどうしたらいいかとなったときに、幕張メッセなどは専門家がいるからアドバイスできると思うのですが、一般のお店に対するアドバイスをする窓口というのは県でお持ちなのでしょうか。それから、また作ろうとされているのでしょうか。その辺をお聞きしたいと思いました。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** 東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。恐らくお店ということで、例えば商業、商店に対して広く全てをとというのはなかなか難しく、私どもでは承知していない部分がございます。

ただ、例えば私ども東京オリンピック・パラリンピック推進課では、旅館ホテル生活衛生同業組合の皆様にご協力をいただきまして、来年度、旅館あるいは宿泊業の皆様とバリアフリーについてどのような対応ができるのか、ハードはなかなか難しい面がございますので、特にソフト面での対応について、一緒に研究していこう

と考えてございます。もちろん今おっしゃられたとおり、幕張メッセのバリアフリー化、あるいは成田空港のバリアフリー化は、それぞれもう御専門の中でやられているということを我々も承知しておりますが、県といたしまして、できることはやっていきたいと思っております。

また、情報発信という意味で、バリアフリーマップをなるべく充実させていくような取組も、健康福祉部でしていると聞いております。なかなか全てというお答えにはなっていないと思うのですけれども、少しずつでも前へ進めていって、できる限りいらした方々に気持ちよく過ごしていただけるような取組は進めていきたいと思っております。

**○新倉副議長** 他に御意見ありますでしょうか。お願いいたします。

**○渡辺委員** 今回「オール千葉おもてなしアクション！」ということで、基本的には良い試みだと思っているのですけれども、少し違和感があるのは、市民とか学生とか、そういった方のおもてなしということと、プロがおもてなしをすることがクリアに整理されていないという気がします。

つまり、どういうことかといいますと、これは非常に残念なことですが、インバウンド観光のいろんな関係者と話をしていると、決して泊まったホテルのサービスが良いとは限らないということがあります。これは非常に言葉に気をつけなければいけないのですけれども、そういう傾向がある中で、サービスの現場における接客業ということは、やっぱり市民とかそういった方をお願いするおもてなしとは違ったものが当然あるべきでして、そこはクリアにしていかなければいけないと思っております。

そういった意味で、常日ごろモデルとして尊重しているのは、東京ディズニーランドのハイスタンダードなサービスです。あれはホスピタルサービスではないのですが、個別対応できるサービスがホスピタリティサービスでして、東京ディズニーランドは非常にハイレベルのスタンダードなサービスを提供しています。なぜかと言いますと、1日何千人というお客さんが見えますから、一人一人の個別対応ができません。そういった意味で、プロの観光の現場では、ハイスタンダードなサービスを提供し、加えて安心・安全を確保することが今後求められてくるという気がします。

今まで学生ボランティアのさまざまなレベルでの活用をお願いしてきましたが、

その対応は、かなり出来つつあるかと思いますが、プロとしての接客サービスのさらなる向上について、もう少し検討する余地があればご検討いただければありがたいと思います。

**○松上観光企画課長** ただいまの件でございますが、今回、県庁内での連携体制をとったということが主眼でございます。観光企画課では、そういう観光事業者の皆様方に外国人観光客を迎えてほしいということがあります。というのは、やはりインバウンド観光について千葉県内には慣れていない地域も多々ありまして、正直言って、「来られてもなあ」という感覚を現場レベルで持っています。

そこで、私どもが研修でやっているのは、短い文章、簡単に単語でも十分コミュニケーションできて、相手を怒らせない方法があるという、そういったテクニックの研修を一昨年度からやっております。なかなか反応が最初のうちは良くなかったのですが、昨年あたりは大分、オリンピックが近づいてくるということで、いよいよインバウンドをやらねばならないなという雰囲気が出始めているということで、また、さらに先生がおっしゃるような専門家向けのこういった事業は別途充実させていきたいと、そのように考えております。

**○新倉副議長** 他にございますでしょうか。

**○夏目委員** 成田空港の夏目でございます。

議題（３）でお話ししたほうがいいのかもかもしれませんが、現在の取組状況についても関連しますので、お願い申し上げたいと思います。

資料２－１の５ページ目の「戦略５・６ 魅力ある観光地づくり・外国人受入体制」というところに、色々な取組をしているというお話が整理されておりますが、御案内のとおり、平成２９年のインバウンドのお客様、外国人のお客様は、２,８６９万人と過去最高となっております。成田空港の入国者数も、法務省の統計によれば７６３万人ということになっています。

ただ、その一方で、これも報道されておりますが、観光庁の平成２８年の訪日外国人消費動向調査によりますと、千葉県への訪日外国人の訪問客は３５．４％で全国３位、成田空港があるからということも大きな要因だろうと思いますが、訪日外国人は非常に多く訪問しているとなっておりますが、外国人の平均宿泊数は０．４泊ということで、全国でも極めて低くなっています。平成２８年は最下位となっているようで、旅行の消費単価も全国で４３位と極めて低いということで、いわゆる滞在型観光となっ

ていません。残念ながら、現状、たくさんの外国人の方が訪問されても、それが地域経済振興に結びついていないのが現状だと思います。

千葉県は、この場で言うまでもなく、非常にたくさんの魅力的な観光資源に恵まれているにも関わらず、訪日外国人の宿泊を含めた誘客が必ずしもできていないことの要因の一つは、成田空港から他の観光地に直接すぐに行かれてしまうということで、成田空港からのアクセス手段が弱いことです。訪日外国人が観光地へ行きたいと思っても、適切なアクセス手段がない、二次交通手段がないということが大きな要因ではないかと考えられます。

そうした観点で、千葉県でも、平成 27 年の 8 月から 9 月に、館山、鴨川、銚子、三方面に高速バスの実証運行を無料でやりました。このときは結構の数の利用があったと聞いておりますが、その次に、平成 28 年の秋にやろうということで、9 月から 10 月に、これは有料で鴨川と銚子で実施したら、必ずしも利用が多くなかったと聞いております。

したがって、なかなか二次交通手段というのは、言うはやすく難しいもので、一義的には、バス会社とかタクシー会社にその気になってもらうしかないのですが、それをバックアップする県の色々な力を、財政的な面も含めて、県の総力を結集して、バスとかタクシーといった二次交通手段を整備していくということが望まれているのではないかと思います。

私どもも、県内の観光地について情報を発信しようということで、具体的には、近く、訪日外国人のお客様に、成田空港を基点とした観光地やアクセスの情報を、日本に来られる前に検索していただけるように、観光情報プラットフォームサイトを設けまして、周辺の千葉県の観光情報、あるいは、成田空港から国内線につながっている観光地の情報といった情報発信を旅前でやっていこうということで、4 月上旬には英語版の運用を開始します。そして、スマートフォンのアクセスにも対応したものにしたいと考えておりますし、多言語化も、中国語、韓国語等についても運用を開始していこうということで、情報を色々な形で旅行をする前に得ていただくということをやっていきたいと思っています。

二次交通手段については、千葉県が手をこまねいて何もしないと申し上げるつもりはありませんが、実証運行を 2 回して、必ずしもそれが成功しなかったということです。恐らく分析もされているのだろうとは思いますが、結果分析をした

上で、どうしたらいいのか、それこそオール千葉で取り組む価値もあるのではないかと、せつかくの観光資源が訪日外国人の方に有効に使われていないということで、飛騨高山に行かれるのもいいですが、もっと千葉県にも来ていただきたいということで、ぜひ、オール千葉県庁の前向きな取組をお願いしたいと思います。

議題（3）で申し上げるほうがよいのかもしれませんが、議題（3）になりますともう少し具体的な話になってしまいますので、ぜひこれからの検討材料にしていたいただければと思います。

長くなりましたが、以上です。

○新倉副議長 ありがとうございます。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。

御指摘いただきました県の実証実験の取組につきまして、今日、私どもの資料がなくて申し訳ございませんが、その結果についての検証等を行っているところだと思いますので、内容について情報を共有しながら、今後の対応についても検討していきたいと思っております。

なかなか、この段階でお答えを出すのが難しい部分もございまして、大変恐縮でございしますが、またそれについては検討して進めたいと思っております。よろしく願いいたします。

○新倉副議長 他にございますでしょうか。

今、三人の委員の方から大変貴重な御意見をいただきましたけれども、バリアフリーの問題、それから、観光資源として千葉をどう生かしていくかというところで、難しい課題ではありますけれども、取り組んでいかななくてはならない大変重要な課題だと思います。

29年度は、少しずつ戦略に基づいて色々な活動が開始されてきたところですので、修正がきくのも今です。これからより有効な形で取組を進められればと思いますので、御意見をいただければと思います。

○渡辺委員 今回の資料の中には明示されていないのですが、1ヶ月前ぐらいだと思いますけれども、千葉県主催で行われた民間企業との連携事業セミナーの中で、千葉大学等の学生発表もあり、非常に感銘を受けました。経済界の方が、色々な形で一生懸命やろうとしていることが、そのセミナーで見られました。私なりに理解

するには、この活動はパートナーアクティベーションの中に入ってくるということでしょうか。これは非常に興味深く期待できると感じましたので、これらの活動をもう少し明示的に次年度からわかるような形にしていいただければ、非常にありがたいです。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** ありがとうございます。県内の商工会議所をはじめとする経済六団体の皆様に「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」という組織を立ち上げていただきまして、先般、連携してセミナーを開催させていただきました。また、夏には、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」の皆様、それからイオンの皆様、あるいは経済協議会の皆様にも御協力をいただいたイベントも実施いたしました。

恐らく、組織委員会が作っています資料1の「パートナーアクティベーション」という言葉になりますと、パートナー企業、いわゆるスポンサー企業様の活動ということになります。千葉県では、いわゆる公式のパートナーとなっていない企業の皆様とも連携をしつつ、さまざまな取組を行っています。したがって、直接「オリンピック」という名前が出せないケースも出てきますけれども、各企業の皆様、それから、先ほどおっしゃった学生の皆様は、非常に前向きに取り組まれておりますので、協力しながら進めたいと思います。特に企業の皆様との協働は効果が非常に大きいということも、理解できてきておりますので、来年度、再来年度と、どんどんこれを拡大していきたいと思っております。また取組については御報告をさせていただきたいと思っております。

**○新倉副議長** 他に何かございますでしょうか。お願いいたします。

**○飯沼委員** 観光物産協会の飯沼です。宿泊についてお話ししたいと思っております。

今年の6月、民泊の法ができて、今、受付を始めたようでございます。オリンピック・パラリンピックは非常に短期間ですが、その間にもものすごくたくさんの方が来られて、宿泊場所が足りなくなると思われます。この辺についても十分に、千葉市及びその周辺、それから一宮町の周辺等、良い悪いは別にして必要ではないかと私は思いますので、その辺もぜひ協議をしていただきたいと思います。

それから、千葉県は、幕張地区が海に面しております。宿泊のときに客船を連れてきて宿泊するというのは、北朝鮮の応援団が船で来て、船に宿泊して通うというような話がありましたけれども、幕張のそばに客船が着けられるような工夫を今の

うちからしておいた方が良くのではないかと思います。せっかく海がそばにあるわけですから、その辺を御検討いただきたいと思います。

**○松上観光企画課長** ただいまの宿泊施設の問題ですが、先般、1月下旬に、みずほ総合研究所が試算を出して、今、東京都内で、あと千葉県も一部含まれてきますけれども、ホテルの建設ラッシュが相当進んでいるという状況下で、当初予想されていたほどの不足はないのではないかとこの見解がまず一つ出ております。

千葉県内で、成田、浦安、それから海浜幕張あたりの稼働率は非常に高い状況にあります。他はまだ収容の余力があるということで、できるだけこちらにも泊まっていたらいいような情報提供、さらには受入体制ということで、観光現場の皆様、そんなに難しい外国語ができなくても、簡単なフレーズと簡単な単語で十分コミュニケーションはできるとか、また、最近は自動翻訳装置といった技術があり、また、インターネットも、コールセンターサービスを使った同時通訳もあるということで、今までインバウンドに縁のなかった宿泊事業者様も、積極的にインバウンドの対応を考えてほしいというような啓発活動は昨年来やっております。

あともう一点、ホテルシップの問題ですが、今、木更津市の港は比較的余裕があるので、そこに誘致できないかということで活動を進めております。

もちろん、千葉市も候補地になってくるのですが、これは港湾関係の貨物船との調整等が必要になってくるということで、港湾課が絡んできます。そういった問題を整理しながら、できるだけ千葉県に近いところに、ホテルシップ、あるいは旅客クルーズ船、そういったものを誘致することができないかということは、地元市と一緒にやっていくという状況でございます。

**○新倉副議長** ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

それでは、ただいまいただきました貴重な御意見は、今後の取組に生かしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、次に、議題（3）に移らせていただきます。議題（3）平成30年度の主要事業についてということで、事務局から御説明願います。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** それでは、私から、議題（3）の平成30年度の主要事業についての中から、資料3-1と3-2につきまして御説明をいたします。

まず、資料3-1でございます。こちらは、千葉県戦略に記載された取組のうち、

県が平成 30 年度に実施を予定している主な取組を抜粋したものでございます。

2 ページ目をご覧くださいと思います。

2 ページの一番上、「戦略 0 大会の成功・開催効果の全県への波及」の中の 1 番目と 2 番目の項目、幕張メッセ大規模改修事業、それから県立九十九里自然公園整備事業でございます。幕張メッセの大規模改修や釣ヶ崎海岸の自然公園の整備を引き続き進めるとともに、来年度からは、サーフィン会場の保安林整備の基盤整備を行うことになってございます。

続きまして、3 ページ目をご覧くださいと思います。

一番上の項目でございますが、「東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議事業」ということで、この会議の運営のほかにも、全国で実施される予定のオリンピック聖火リレー、あるいは、おもてなしプロジェクトに関する取組を実施する予定でございます。おもてなしプロジェクトにつきましては、後ほど、資料 3-2 で御説明をいたします。

続きまして、4 ページ目をお開きいただきたいと思います。中ほどにございます「戦略 2 競技力の向上・スポーツの普及」の上から 1 番目と 2 番目の項目、続きまして、5 ページ目の一番上の項目、東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業、障害者スポーツ振興事業、そして、特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業、この 3 つでございます。アスリートの強化・支援を継続して実施するほか、障害者スポーツの振興を図るため、県内へのコーディネーター派遣、さらには、特別支援学校を拠点とした地域交流を新規に実施することとしてございます。

続いて、6 ページ目をご覧くださいと思います。福祉タクシー導入につきましては、県としての助成を継続して実施いたします。また、駅のエレベーターやホームドア設置に関する補助について予算を増額し、整備を促進することとしております。また、3 つ目の項目の宿泊施設のバリアフリー研修につきまして、県内宿泊施設のバリアフリー化について、今年度の専門部会の検討を踏まえまして、宿泊施設の従業員の皆様を対象とした研修を、開催することとしております。

7 ページ目、8 ページ目の戦略 5・6 につきましては、先ほどの資料 2-2、2-3 の説明となりますので省略させていただきます。10 ページ目の戦略 8 をご覧くださいと思います。

10 ページ目の真ん中、「戦略8 機運の醸成・国際交流の促進」とございます。項目としては、オリンピック・パラリンピックを活用した教育推進事業、オリンピック・パラリンピック普及・教育推進事業、そして、東京2020への機運醸成に向けた情報発信事業ということで、県内開催競技の普及、オリンピック・パラリンピック教育、文化プログラムのほか、県内開催競技を紹介するテレビ番組の放送等を通じまして、開催機運をさらに盛り上げてまいりたいと考えております。

11 ページ目の4つ目の項目、東京オリンピック・パラリンピックに向けたボランティアの確保・育成につきましては、議題(1)で御説明しましたとおり、本年夏ごろから、県といたしましても、都市ボランティアの募集を開始する予定としており、その確保・育成に取り組んでいくこととしています。

最後に、12 ページ目になりますが、「戦略9 戦略的な千葉の魅力発信」でございます。こちらは、この後、資料3-3の中で御説明をさせていただきますので、ここでは省略させていただきます。

続きまして、資料3-2をご覧いただきたいと思っております。

資料3-2は、「おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック～」ということでございまして、2020年の大会に向けて県民の皆様のおもてなしの機運を高めていくために、県で、「おもてなしCHIBAプロジェクト」の第二弾として、「ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック」を実施いたします。

このプロジェクトは、九十九里・外房地域の子供たちが栽培したひまわりの種をとりまして、その種をもとに、来年度、再来年度と育て続けていくことで数を増やしまして、その種をもとに、大会開催時にはサーフィン会場周辺をひまわりでいっぱいにしようという、おもてなしの心で、選手、関係者、観客をお迎えしようとする運動を始めるものでございます。来年度から、小中学校等でひまわりの栽培を開始いたしまして、大会まで、多くの子供たち、子供たち以外の方にも御参加をいただければと考えております。

資料3-2に関する説明は以上になります。

私からの説明は以上で、続きまして、資料3-3について、報道広報課から御説明をいたします。

**○大石千葉の魅力担当課長** 千葉県報道広報課でございます。

お手元の資料 3-3 をご覧いただきたいと思います。

来年度の新規事業といたしまして、「(仮称)千葉の魅力発信隊事業」というものを予定しています。仮称となっておりますとおり、名称等は今後決定していく予定ですが、事業の概要といたしましては、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、身近で情報拡散力の高い SNS、これは Facebook を想定していますが、Facebook に県民の方々が体験したさまざまな千葉の魅力を投稿していただきまして、千葉の魅力を発信するという一つの手法を考えてございます。魅力発信をすることで、出来れば、見た方が、千葉を訪れたい、千葉の産品を買いたいなど、具体的な行動につながられればと考えております。

下の図で流れを書いておりますので、御説明させていただきます。

まず、仮称でございますが、発信隊というものを作るに当たりましては、投稿いただく内容がより幅広く伝わるような内容になるようにという趣旨で、研修会を事前に開催したいと思っております。そこに御参加いただいた方を初期メンバーというような位置づけにさせていただいて、発信隊の投稿を進めたいと思っております。

県のほうで Facebook を立ち上げまして、さまざまな情報を投稿していただくということで、先ほど、投稿内容を見た方が、千葉を訪れたい、千葉の産品を買いたいということを目指していると申し上げましたけれども、良いもの、おいしいものなどを見つけたという投稿であれば、その購入方法を少し付記していただくとか、きれいな場所、すてきな場所に行ったということであれば、そのアクセス等を情報と一緒に付記していただくようなことで、具体的な行動を誘発したいという考えでございます。

さらに、投稿していただく方々のモチベーションを維持していただくという意味もありまして、千葉の魅力発信に優れた投稿をしていただいた方々に対する表彰なども行っていきたいと考えております。

本県に注目が大変集まります 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの機会を生かしまして、こうした新たな取組も通じまして、千葉の魅力を幅広く発信していきたいと考えております。

以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

それでは、御質問、御意見がございましたら、お願いをいたします。

○**上田委員** お話を聞いていまして、色々な対策をとられていることが非常によくわかってきました。

SNSとか、色々な魅力発信の資料をつくるということがございますが、私だけが特殊なのかどうかわかりませんが、旅行をするときは、大体、旅行会社に行き、あるいは、カタログやパンフレットを見て、ここに行ってみようかなと海外旅行や何かを決めるんです。そういうときだったら、私みたいな素人が行く場合かもしれませんけれども、先方の旅行会社とのタイアップとか、あるいは、日本の旅行会社が海外に支店を持っているかもしれませんから、そこのタイアップとか、そういうことを考えるのも1つかなと思います。

そのとき、魅力的な写真をポンポンと3つぐらい並べて、千葉はこういうところですよというのをアピールすると、「行ってみようかな」と思う人がいるかもしれないというふうに思っています。これを見ている感じでは国内的な施策が結構多いのですが、対外的にどうアピールしていくかということも大事ではないかと思っております。

○**松上観光企画課長** ただいまの質問ですが、観光誘致促進課が担当している部分にはなるのですが、当課も一緒にやっているということで、海外の商談会等には毎年行って、こういった千葉県の観光スポットのPR等をやっているということと、千葉県を組み込んだ観光商品を作ってくれというような積極的な商談会活動はやっております。

オリンピックが近づいたので、オリンピックのチケットというと公式スポンサーとの関係等々がありますが、せっかくオリンピックを見に日本にやってくるのですから、できるだけ周辺観光も一緒にやってもらえるようなアピールを2年前ぐらいから積極的にやっていて、今、タイミング的にはこれからというような感覚を持って進めております。どうもありがとうございました。

○**新倉副議長** ありがとうございます。

他にございますでしょうか。お願いします。

○**田村委員** オリンピック・パラリンピック普及の教育推進についてですけれども、推進校に指定された学校の生徒たちは、大変興味を持って、オリンピックはこういうものだ、ボランティアに対しても、オリンピックに関わるこういうことができるんだよということで、とても理解してきてくれています。

そのほかの指定校にならない学校の子供たちは、やはり、よそのどこか遠くのところでオリンピックをやっているという、そういう意識なんです。オール千葉を言っているのであれば、例えば、指定されていない学校が少しでも参加できるような、気持ちだけでもそういうものを持っていけるように、ボードに大会何日前とか、何でもいいです、学校で特色のある、その学校でオリンピックに携われるようなもののボードをつくるとか張るものがあるとか、県ではそういうものも考えているのでしょうか。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** 東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。

子供たちにどれだけ関心を持ってもらえるかということが非常に重要だと、私どもも、まさにそう思っております。

カウントダウンボードにつきましては、やり方をまだ私どもで考えていないということもございまして、県と千葉市でつくったものは全部で4つしかございませんので、現在の様な形でやらせていただいているところでございます。

あと、学校との関係ということで言いますと、もちろん、オリンピック・パラリンピック教育推進校は当然といたしまして、学校訪問ということで、例えば、フェンシング協会の太田会長様が学校での競技紹介をしたいという意欲をお持ちで、県としても一緒にやるということで、今年度から、県内の小中学校で、銀メダリストの太田会長自ら来ていただいて、学校でフェンシングの実演をして体験をしてもらうことも進めております。

また、オリンピック機運を高めるという意味では、正式には今年の夏に名前も決まるそうですけれども、先月、オリンピック・パラリンピックのマスコットのイメージが決まりまして、小学生が投票する形で体験するという組織委員会の取組でございましたので、私どもとしても、県内で、できる限り参加いただきたいということで、多くの学校に参加をいただけたところでございます。

必ずしも今おっしゃられたような形で全てが出来ている訳ではないのは重々承知しておりますが、我々としても、学校での取組をできる限り広げたいと考えております。これからも、できる限りのことは検討してまいりたいと思いますので、また御指示をいただければと思います。よろしく願いいたします。

**○夏目委員** 度々すみませんが、せっかくの機会なのでもう一つお願いしておきた

いと思います。

戦略8にある機運醸成ですが、この会議の冒頭、森田知事からもお話がありましたように、1000日前イベントは成田空港で千葉県主催の機運醸成イベントを開催いただきました。イベントでは非常に多くのお客様にお楽しみいただいて、大変盛況だったと聞いております。

そこで、資料1によりますと、2年前が7月から8月、ここには500日前となっているのですが、したがって、2年前でも500日前でもいいのですが、500日前のほうがいいのかもかもしれませんが、1000日前をやったからもういいじゃないかということではなく、また500日前の機運醸成イベントを少し工夫して、成田空港は場所を提供することはしていきたいと思ひますし、ぜひいろんな意味で協力したいと思いますので、それを御検討いただいたらどうかということです。

それから、外国の方が最初に日本に来て接するのが空港でありますので、空港でオリンピック・パラリンピックの装飾をしていきたいと思ひているのですが、私どもはオリンピックのオフィシャルスポンサーになっていませんので、いろんな制約があると聞いています。したがって、自治体がやるのであればクリアできるのではないかと考えていますので、オリンピック・パラリンピックのバナーを掲出するか、あるいはデジタルサイネージをオリンピックを前にして少し増やそう、中身も良くしようと思ひています。その中のコンテンツにオリンピック機運醸成のコンテンツを入れるという形もあるのではないかとということです。

当空港はいろんな形でオリンピック・パラリンピックには協力したいと考えていますので、そういう機運醸成イベント、あるいは機運醸成のバナーとか、デジタルコンテンツといったものを県で中身はお考えいただいて、いろんな組織委員会の制約がありますので、民間会社が勝手にやるわけにいかないようなので、ぜひ御検討いただければと思ひます。

**○石川東京オリンピック・パラリンピック担当部長** 東京オリンピック・パラリンピック担当部長の石川でございます。

ただいまの機運醸成について、それから空港の装飾についてということで、2つ御指摘をいただきました。

まず、機運醸成についてでございますけれども、資料1は組織委員会がつくったものでございますので、1000日前、500日前、それから100日ということになって

ございますが、私どもは開催会場がある県でございますので、昨年も行いましたけれども、3年前、今度は2年前、それから500日という色々な切れ目がございます。そういうものを捉えて積極的に機運醸成の場を設けてまいりたいと思っております。まだこれから色々な計画を立てる段階でございますが、またその節はよろしく御指導、御協力をお願いいたしたいと思っております。

それから、成田空港は、夏目委員がおっしゃいましたけれども、当然のことながら日本の玄関口ということで、これは昨年のイベントの際に組織委員会の室伏理事もおっしゃっていましたけれども、本当に日本に降りた方が初めて通るのが成田空港ということでございます。

装飾に関しましては、私どもも何かイベントをやるにつけて、組織委員会とスポンサーの権利保護ということで難しい協議をしながらやっているところでございますが、それにつきましても、できるだけ千葉県、成田空港というところは、オリンピックの玄関口として、何らかのものを示せるような形でできるように、頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**○新倉副議長** 他にございますでしょうか。

**○久保委員** ベイエフエムの久保と申します。

2点ございまして、1点は資料3-3、千葉の魅力発信隊事業ということで、今、さまざまな人が使っているSNSを活用したいということで、ここではFacebookというふうに書いてあります。私も詳しいことはよくわかりませんが、使っているSNSの種類はどんどん変わっているようで、今はFacebookではなくて、ツイッターだとか、インスタグラムとか色々ございまして、せっかくやるのであれば、みんなに一番見てもらえるような手段があると思っておりますので、それは適宜研究していただければと思います。

2点目ですけれども、機運醸成ということで、当社ベイエフエムの取組とすれば、ベイエフエムらしいというのは、サーフィンミュージックだとか、音楽イベントということがございまして、1つは、サーフィンの会場である一宮町の海岸を使いまして、一宮町と組んでこの春にサーフィンミュージックということで、音楽イベントを行います。5月にやるということで、近日中に発表できると思っておりますけれども、こういうことで機運醸成や地域の魅力発信の1つになればということで今年から、できれば来年、再来年とこんなふうに続けていきたいと思っております。

○大石千葉の魅力担当課長 千葉県報道広報課でございます。

発信隊事業の件で、御指摘ありがとうございます。Facebookを考えておりますのは、やはり県でやる事業ということで、投稿者の方が、Facebookは御案内のとおり実名性がございますので、より良い投稿をいただくという意味で、実名性のあるFacebookを考えております。

ただ、おっしゃるとおり、今は、ツイッターとか、インスタグラムとかがございますので、これから検討していく中で、発信した内容は、Facebook中心ではございますが、それが他のツールを使っていけるかどうかは技術的な問題もあると思っておりますが、活用ができないかというのは考えていきたいと思っております。

○上田委員 資料1の部分ですけれども、1000日、500日、100日というのがありますが、1年前というのはやっぱりやった方がいいんじゃないかと思っております。大きな機運として1年前のいわゆる機運を盛り上げるイベントです。なぜかという、平成30年度の予算はほぼ決まっていると思っておりますが、平成31年度の予算はこれからでしょうから、今からでも十分間に合うかなと思ひまして、1年前イベントを来年度の予算の中でひとつ検討していただければありがたいと思ひます。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 御指摘いただきまして、ありがとうございます。

組織委員会の資料では1000、500、100日前というカウントになっておりますが、県といたしましては、やはり3年前、2年前、1年前というのは非常に重要だと考えてございます。御指摘を踏まえまして、県としてできる限り実施できるように進めていきたいと思ひます。ありがとうございます。

○武田委員 機運の盛り上げと申しますか、おもてなしの心を盛り上げていこうというテーマでございますけれども、私ども、あるいは今日お見えの皆様方、関係者は当然そういう気持ちを持って臨んでいると思うのですけれども、千葉県600万人の県民がどういう気持ちでこのオリンピック・パラリンピックを迎えるのかなというのを考えると、必ずしも歓迎という方々ばかりではないんじゃないかと思ひます。

オリンピック・パラリンピックが来ることによって利益を得られると申しますか、商売につながるとか、そういう方々は機運の盛り上げについて諸手を挙げて賛成で前向きだろうと思ひますけれども、他の観光地と千葉県の観光地を色々比べてみる

と、千葉県はある意味でかなり遅れているのではないかなと感じております。

例えばタクシーに乗っても、他のいわゆる観光地と言われるところに行きますと、大変サービスがいいです。千葉県のタクシーに乗ってサービスがよかったとはあまり感じないと私は思っています。ですから、今日はタクシー協会の方々もお見えになっていらっしゃると思いますけれども、そういう企業を通して職員を盛り上げるというか、教育することをもっと積極的にやっていかなければいけないのではないかと思っています。

もう一つは、千葉県は、やはり漁業関係、農業関係が昔から非常に強いところでございます。そういう方々は観光客と直接一体化していないケースが大変多く、エリアによっては、観光客に来られると大変邪魔だという感情を持たれる場所もございまして、来てもらいたくないというのが昔からあるところもございます。

それは直接観光客に物を販売していないところではないかと思えますけれども、そういう方々、千葉県全体の人たちの底上げといたしますか、おもてなしの心を磨いていく、あるいは底上げを図っていかないと、外から来た皆様がまちを歩いたときに、「よかったね」という気持ちを感じないのではないかと思えますので、その辺のところを県で今後、前向きに全体的な底上げ、おもてなしに心を砕いていただければありがたいと思えます。

**○松上観光企画課長** ただいまの件でございしますが、まず戦略5、6におきまして、観光に関わる事業者様に参画いただいております、先ほど御指摘があったような点につきましては、来年度からまた積極的に啓発等に努めていきたいと考えております。

そして、全体の底上げにつきましては、先ほど説明いたしました取組方針の今後の展開で、来年度、広く県民の皆様へ訴える取組と並行する形で、地域別、事業別、分野別にもそういった啓発の活動をやっていこうと考えているので、皆様からの様々な協力を頂戴しながら、県が底上げという言葉を使うと大変失礼なのですが、皆様と一緒にやっていきたいと考えております。どうもありがとうございました。

**○新倉副議長** 他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

**○増田委員** ありがとうございます。先ほど夏目委員が、機運醸成の中で日本の玄関口の成田空港の装飾をもっと自治体でというお話をされていましたが、おっしゃるとおりだと思います。

私たち、色々な世界大会に行きますと、まず空港なんです。資料4のほうでも御

説明されると思いますが、例えば、平昌パラリンピックの時には、金浦空港に降りたんですけれども、そんなに盛り上がっていない感じがしました。世界陸上でも、ロンドンはそうなんですけれども、ぱっと空港に降りて、マスコットであったり、横断幕であったり、ウエルカムの歓迎ムードがあると、選手はうれしいし、関係者も「よっしゃ、始まる」という気持ちになるんですけれども、そこがちょっと地味だと、あまり歓迎されていないなという気持ちになるんです。ですから、東京オリンピック・パラリンピックも、羽田空港と成田空港に差があると、ちょっといけないと思います。

それに加えて今回感じたことは、空港を降りてから、平昌の場合には江原道という競技会場まで3時間バスでかかるんですね。ずっと東に行くんですけれども、そのときに、ソウルのところはちょっと歓迎ムードがあって、あと、着いてまちに入ってから横断幕とかはありますけれども、「本当にパラリンピックがあるの」と、3時間の間にちょっと不安になりました。そのあたりが全然盛り上がっていないです。

だから、私は、2020年、千葉でやるときに、幕張メッセはもちろんですけれども、サーフィン会場の一宮とか、私のふるさとのいすみは、のぼりとか、横断幕はいいですね。まちの道路にあると、「ああ、これから始まる」と、導かれている気持ちになってうれしいです。だから、ああいうものをもっと出したほうがいいと感じました。

**○新倉副議長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

**○渡辺委員** 度々すみません。事業としてこういう戦略でやっていこうという形が非常に整理されてきて、すばらしく改善されてきているなということが本当に正直な気持ちです。

そういった中で若干違和感があるというか、つまり、例えば一宮に関して言うと、先ほどベイエフエムさんはそういう動きをしているとか、提携を結んで色々協力してやっていきましょうという形で、各場所に落とししたときに、そのレベルでの情報が共有されていないのではないかという危惧をちょっと感じております。

これまではまだ日にちがありましたからいいんですけれども、1000日とか500日前ということを見ると、多分、来年度は現地によく近づく。成田空港さんの話もありましたように、そこでどうするかを押さえていく時間というか、ある意味では

お互いを知る時間を作っていくといいかなと思います。

例えば私が思ったのは、一宮で民間企業さんと組むともっといろんなことができるなと思ったときに、どこを話せばいいのかというのが何となく分かっているような、分かっているようなところがあって、それは全体を仕切っている県の仕事としては難しいのかもしれないのですが、ただ、そこに落とし込んでいく仕組みを作っていくと、もう少し今後具現化して現実近づいてきたときに力を発揮するようになると思います。

ですから、来年度の1年間というのは、そういう意味では、関係者との交流とか、知り合っていく時間としては、具体的な形にはならないけれども、その時間はやっぱり作っておいた方がいいかなと思います。ちょっと漠然とした話で大変申し訳ないのですが、全体として取組は本当に良くなっているし、でも何か足りないのは何かかなと考えると、そこかなという気が若干しました。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** 御指摘いただきました取組につきましては、色々と御相談させていただきながら、御指導をいただきながら進めたいと思います。

特に各地域を結ぶ取組は、一つは専門部会で地域あるいは関係する方々との会合があったり、あるいはサーフィンですと、銚子から南房総、館山までの16市町村が一体となった色々な会議なども開いておりますけれども、そういった中でどのような取組ができるのか、進めたいと思います。よろしく願いいたします。

**○新倉副議長** ありがとうございます。

それでは、時間も押してまいりましたので、次の議題に移りたいと思います。貴重な御意見、ありがとうございます。今後の取組に生かしていきたいと思います。

それでは、議題の(4)です。平昌2018冬季オリンピック・パラリンピックについて、事務局から御説明願います。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** 東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。

資料4「平昌2018冬季オリンピック・パラリンピックについて」、御説明させていただきます。

県といたしましては、2018年の今回の平昌オリンピック・パラリンピックについて情報を収集した結果を、大会の様子という形で、この場で御報告させていただきます。

たいと思います。

1 ページ目の下のスライド 2 と 2 ページ目の上のスライド 3 は、大会の概要でございます。パラリンピックにつきましては昨日閉会いたしまして、日本としては金メダル 3、銀メダル 4、銅メダル 3 の計 10 個のメダルを獲得しました。

2 ページ目の下のスライド 4 がオリンピックパークでございますが、この写真は、スケート等氷上種目の開催地となりました江陵に設置されたオリンピックパークの様でございます。こちらは、入場料は 2,000 ウォン、日本円で約 200 円で入場できたそうですが、当日、競技の観戦チケットを持っている方は無料で入場できたそうでございます。

パーク内では、4つの競技会場に加えまして、パートナー企業、各企業様の広報館、大型の売店、レストラン、バーチャルリアリティ（VR）の体験ブース等が設置され、さらに、パレード、あるいはストリートパフォーマンスなどが非常に盛り上がっていたようでございます。

次の 3 ページ目に移りまして、スライド 5 になります。こちらはフィギュアスケート等が開催されました江陵のアイスアリーナの写真でございます。大会に向けて新設された会場でございます。先ほど増田委員からございましたように、車椅子用の座席なども十分に整備されるなど、バリアフリーに非常に配慮された施設だという印象を受けました。会場内では飲食店、売店、インフォメーションデスクの他、こちらでも VR の体験ブースなどが設置されておりました。

スライド 6 になりますが、上 2 つの写真がオリンピックパーク内に設置されたライブサイトで、下 2 つは、日本国内に東京都と組織委員会が設置したライブサイトの写真の一部でございます。日本国内に設置された 7ヶ所のうち、写真左側は仙台駅で行われたライブサイトで、この当日、フィギュアスケートの男子シングルのフリーがライブ中継されたこともありまして、この写真のとおり、非常に多くの方でにぎわっていたようでございます。

スライドの 7 になりますが、こちらはボランティアのことになります。ボランティアは全体に若い方が多くて、親切で非常に感じのよい対応でした。

仁川空港駅、江陵駅、江陵市内、それからソウル市内の繁華街にもいわゆる都市ボランティア、各都市が設置するボランティアがいるブースが設置されておりまして、3人程度でチームを組んで交通案内等の活動を行っていたようです。また、名

札には対応可能な言語を表示することで対応を進めるほか、翻訳アプリなどのICTの活用もされていたようでございます。

最後に、スライド8になりますが、江陵駅前会場付近は、先ほどお話がございましたように、五輪マーク、大会マスコットなどのモニュメントで、横断幕も設置され、非常に大会機運を盛り上げる取組がされていたようでございます。

私どもといたしましては、今後も組織委員会等から平昌大会の状況については引き続き情報収集を図るとともに、さらなる情報を皆様方と共有しながら、東京2020大会の開催準備に生かしたいと考えております。

議題（4）に関する説明は以上でございます。

**○新倉副議長** ありがとうございます。

何か今のことに關して御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の議題の（5）に移らせていただきます。

議題（5）その他について、事務局から何かございますか。

**○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長** 議題（5）その他につきまして、2点御報告をさせていただきます。

1点目が、資料5-1にございます東京オリンピック・パラリンピックに係る県関係の総経費についてです。

昨年1月の推進会議におきまして、県の総関係総経費が150億から180億円となる試算結果を御報告させていただきましたけれども、今回、平成30年度当初予算編成の状況を踏まえまして新たに見直したところ、合計160億円から180億円となったことを御報告させていただきます。

資料の中ほど、1、県関係経費の概要の中で、（1）と（2）にございますように、2020年の大会開催に当たり直接要する経費として28億円、大会開催に伴い前倒し実施し、大会後もその効果が継続する取組に関する経費として130億円、さらに、今後の支出の上振れ等予備費として20億円を見込みまして、全部で180億円という数字を今回総経費の中で示させていただいたところです。

2ページ目に、前回の試算との比較を記載しております。また3ページ目には、総経費に関する財源と国庫支出金、地方債などの特定財源と一般財源の割り振りをまとめてございます。

資料5-1については以上になります。

続きまして、資料5-2をご覧いただきたいと思います。

第8回の推進会議における主な意見と対応について御説明させていただきます。

皆様からいただいた御意見はこちらにまとめさせていただきます。それに関する対応を文章にまとめてございます。主なものを御説明させていただきますと、1ページ目の一番下、夏目委員の成田空港の活用をいただきたいという御指摘でしたが、こちらは先ほどお話がありましたように、1000日前のイベントを実施しています。

裏面をご覧くださいますと、教育の関連、心のバリアフリー、ボランティア、異文化理解などの御意見をいただいたところでございます。今年度は、先ほどお話がありましたように、推進校におきまして、訪日外国人へのインタビューや伝統文化の説明、ボランティア活動への参加などの学習に取り組んだところでございます。

今後こうした取組を通じて、志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材の育成を進めてまいります。

その他、ボランティア、観光、魅力発信等に関する委員の皆様の御意見に関しましても、今後、専門部会等において検討してまいりたいと考えております。

その他については以上でございます。

○新倉副議長 ありがとうございます。

それでは、御質問、御意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

今日の会議の中でたくさんの貴重な御意見をいただきました。1つ、今さらながらではありますがありますが、委員の皆様方が御所属されているところ、民間の方々も含め、いろいろな資源があるということを改めて感じました。

渡辺委員からもお話がありましたけれども、より具体的な活動をこれからもっともっと詰めていかななくてはならないと思いますので、その際にも皆様方の資源とお力をいただき、できる限りいいものにしていきたいと思います。

それから、もう1つは、武田委員から御発言がありましたように、やはりオリンピックを歓迎している人たちばかりではないのかもしれないし、そこにも目を配る必要があると思います。

オリンピック・パラリンピックを開催するまでには、それぞれがそれぞれのところで試行錯誤をしながらいろいろな活動を行います。この開催までの過程は、レガ

シーとして残すべき大切なものは何かを考える上で重要な過程でもあろうと思いません。この準備期間中に何が重要で、何が意味ある事なのかその本質を考え共有し、オリパラを手放しで歓迎できない方々にとっても意義のあるものになるよう、今後とも皆様方のお力、御助言をいただければと思います。

今日は、少し時間が過ぎてしまいましたけれども、貴重な御意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

これで進行を事務局にお返しいたします。

## (5) 閉会

○司会 皆様、どうもありがとうございました。

今後のスケジュールでございますが、次回の推進会議の開催時期につきましては、専門部会における検討や具体的な取組の進捗状況等を踏まえまして、来年度改めて御連絡させていただきたいと思えます。

また、本日の議事内容につきましては、議事録を作成し、千葉県ホームページ上で公表いたします。公表する内容につきましては後日確認をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日は、非常に限られた時間で行いましたので、さらに今後お気づきの点などございましたら、事務局まで御連絡いただければ幸いに存じます。

それでは、これもちまして会議を終了いたします。本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございました。